

父母の会 便り

NO.2

梧林祭での結束を今後につなげましょう

父母の会会長 落合弘樹

2011年も早や、あと1か月ばかりとなりました。国の内外ともに大きな出来事が多かった1年でしたが、目黒学院中学・高校においても、共学化最初の年になるなど、新たな一步を踏み出すこととなりました。3月11日の東日本大震災は、晴れがましい表情で巣立っていく卒業生の門出をお祝いした翌日でしたが、学校側の奔走によって帰宅困難となった生徒への対策が図られ、また4月には入学式を予定通り実施することができました。

梧林祭は体育祭とならぶ重要な学校行事で、父母の会も全面的に協力いたしておりますが、今年度は役員の結束と意識を強めるとともに、模擬店ごとの責任の所在をわかりやすくするため、学校のロゴを入れたエプロンを役員用に備え付けることとしました。また、ご承知のように、農業体験で様々なご配慮をいただいた飯舘村は、東京電力福島第一原子力発電所からの放射能流失により、全村避難という未曾有の苦境に直面しています。私たちも微力ながらサポートできないかという考えから、一日でも早く住民が帰村できますようにとの願いをこめて、カエルの貯金箱を設置して募金を入場者にお願ひし、さらに「がんばろう！飯舘村」とプリントされたTシャツを着用して、我々の意思を表明することにしました。

開催当日は、二日間とも天気に恵まれ、活況に満ちた梧林祭となりました。当日のお手伝いやバザーへの献品など、様々なかたちで御協力いただいた会員の方々に、改めて御礼申し上げます。また、アンケートおよび11月5日に開かれた慰労会においても、建設的なご意見を多々いただきましたが、ぜひとも来年につなげたいと思います。

梧林祭に際し、私は焼きそば担当でしたが、予想外の売れ行きでなかなかコンロの前を離れられず、かならずしも全体状況の把握に徹底することができなかつたため、行き届かない点もあったかと思ひます。このような次第で、生徒諸君の努力の成果をすべて拝見したわけではありませんが、合唱コンクールには審査員として立ち会わせていただきました。私の印象は、男子だけの最後の学年となった2年生からはたくましさを感じ、女子が加わった1年生からは団結力が伝わりました。目黒学院が伝統を継承しつつ、新たな飛躍を遂げていこうと確信した次第です。また、それを支える父母の会の役割の重要性も再認識いたしました。会員各位の従来のご支援に感謝申し上げますとともに、今後ますますのご協力をお願いいたします。



～各コーナーより～

梧林祭は両日共にお天気に恵まれてたくさんの方々に来ていただきましてありがとうございました。来年度の梧林祭もアツアツのおいしい焼きそばをみなさんに食べていただけるように頑張りますのでよろしくお願い致します。(焼きそば担当 高橋裕美)

保護者の皆様からのたくさんの献品、ありがとうございました。当日のお手伝いの皆様、クラス委員の方々ののおかげで、無事完売し終えることができました。心から感謝申し上げます。(バザー担当 亀山史子)

今年は高入の強敵が現れましたが、快くご協力下さったお手伝いの皆様、クラス委員の皆様のお陰で今年もフランクフルト・ソーセージ合わせて 800 本を完売することができました。心から感謝しております。楽しい 2 日間をありがとうございました。(フランク担当 阿部浩美)

クラス委員・当日のお手伝いの皆様の丁寧な接客、準備、後片付け本当にどうもありがとうございました。お陰様で、焼菓子・アイスを完売することができました。心より感謝申し上げます。(喫茶担当 江原文)

今回の梧林祭は天気に恵まれたこともあり、近年にない人出でした。予想を上回る長蛇の列に面喰らいながら、ひたすら焼く、盛る、売る、の繰り返しでした。結果は 1,430 食。達成感と一体感を子供達と同様に味わえましたことに感謝します。お手伝いの皆様、学年委員の皆様、本当にお疲れさまでした。(お好み焼き担当 吉田法義)

～募金の状況について～

- ・飯館村募金箱(カエルの募金箱)への募金は¥27,925 となりました。
 - ・今年度は梧林祭収益の一部¥80,635 を飯館村に寄付いたします。
 - ・なお例年にならい、収益の一部を生徒達の福利厚生に充当する予定です。
- 皆様にご協力をいただきまして、どうもありがとうございました。